

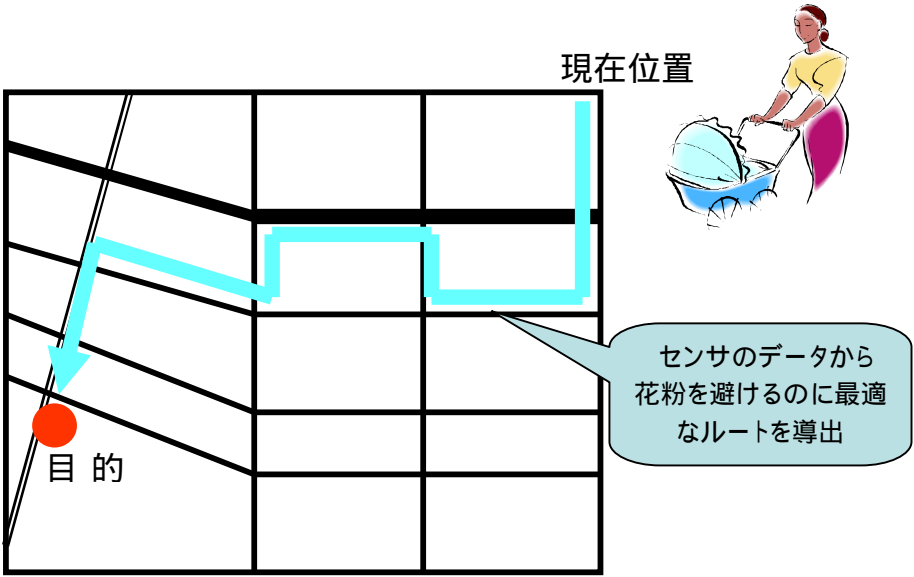
応募例 1

タイトル： 「気象データに基づく危険回避ルートの導出システムの開発」

提案者氏名	田 男	
提案者所属	大学 ××学部××学科(年)	
提案者連絡先	電話：×××-××××	FAX：×××-××××
	電子メール：xxxxx@xxx.ac.jp	

概要 (200 字程度)

- 特定地域において、紫外線センサや花粉センサを多数設置して、それらのリアルタイムデータを収集し、その地域における紫外線や花粉の分布状況を調査することにより、「紫外線が強いエリア」「花粉の濃度が高いエリア」を導出する。
- さらに、それらのセンサのデータとナビゲーションシステムを組み合わせ、徒歩で目的地まで行く際に最も紫外線や花粉の被害が少ないルートを提示するシステムを構築することをめざし、そのために必要最小限のセンサ数や配置について研究・実験する。



特長 (200 字程度)

- 本研究の成果を活用すれば、1,600 万人に達する花粉症患者や日焼けを避けたい人達の日常生活における制約・負担を緩和することができる。
- 多様・大量のセンサデータを収集・活用するためのインフラとして JGN を活用する。また、全国のデータを集約する基盤としても JGN が活用される。
- 日常生活を様々なセンサが支えるユビキタス社会では、本提案の実現は確度が高い。また、センサネットワークの活用モデルは他の用途にも適用可能。

応募例 2

タイトル：「DDoS 等攻撃の挙動分析による攻撃予報技術の開発」

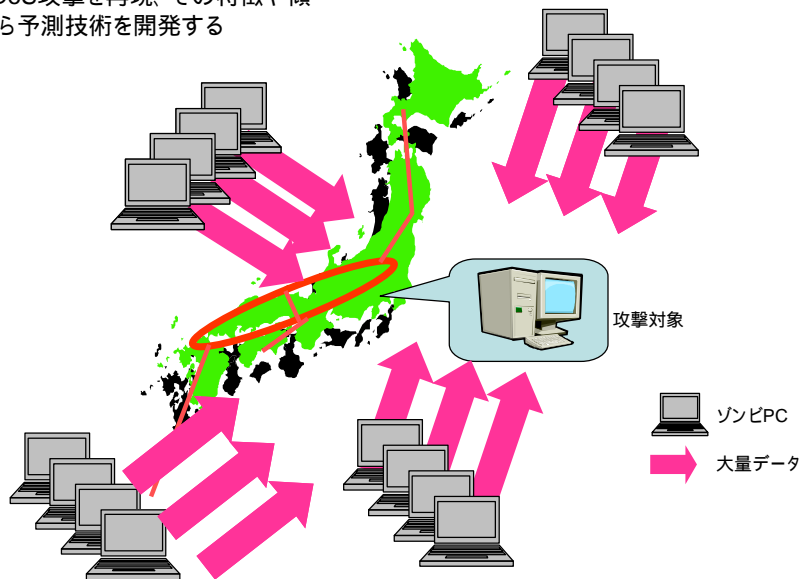
提案者氏名	田 男	
提案者所属	株式会社 事業部	
提案者連絡先	電話：××× - ××××	FAX：××× - ××××
	電子メール：xxxxx@xxx.co.jp	

概要 (200 字程度)

現在、トラフィック観測等により、複数地点から大量のパケットを送りつけてサービス不能に攻撃対象を陥れる DDoS 攻撃の発生をほぼリアルタイムで検出する体制が構築されつつあるが、その予兆を見極め「予報」を出すことはできていない。

そこで、JGN の環境を用いて、ボットネットによる攻撃のモデルを構築し、その挙動を分析することを通じて攻撃予報技術を開発する。

JGN 上にボットネットを限定し、広域のDDoS攻撃を再現、その特徴や傾向から予測技術を開発する



特長 (200 字程度)

- 本研究によって、ボットネットによる攻撃に関する「予報」を流すことができるようになれば、その被害を最小化することができる。また、そのような予報を広く提供することによって、社会全体の啓発にも寄与することが可能である。さらに、この予報技術を海外に展開することで国際貢献が可能になる。
- 本研究の場合、大規模な通信資源を必要とすることから、JGN の環境が有効である。

応募例 3

タイトル：「VR カーレース環境の構築」

提案者氏名	田 男	
提案者所属	高等専門学校 ×年×組	
提案者連絡先	電話：××× - ××××	FAX：××× - ××××
	電子メール：xxxxx@xxx.ac.jp	

概要（200字程度）

JGN の全国の拠点に VR 環境を設置し、JGN を介して 3D 画像や音声、車の速度等の情報を交換し、VR カーレースを行うことができるしくみを構築する。特に、複数地点から同時に参加可能で、遅延による格差がほとんど生じないモデルを研究する。

また、例えば、その時点のトラフィックの状態をレースコンディションに反映することで、常に変化する状況を提供することが考えられる。

JGN の全国の拠点にVR環境を設置し、
JGN を介したVRカーレースを行うしく
みを構築する。



特長（200字程度）

- 本研究を通じて、3D 映像等の大量のデータを相互にやり取りして共有化を効率的に実現するための手法や、トラフィックの状況に応じてルートを最適ルートを開発することが考えられる。そうした手法は、将来の IP パケットの急増やネットワークのトラブルにも柔軟に対応させることが可能となる。
- こうした研究開発は、膨大なトラフィックが発生するため、全国規模の閉域ネットワークである JGN をベースに取り組むことが適当である。